

地域連携通信

CHIIKI RENKEI TSUSHIN



地域医療連携センター

Tel 052-851-5511 (代表)
Tel 052-858-7131 (直通)

少子高齢化時代だからこそ重みを増す小児医療の役割

いわた おうすけ
小児科 教授 岩田 欧介



2026年度より、小児科と新生児部門の診療責任者のバトンを受け取りました、小児科の岩田欧介です。世界の先進国の中でも、日本における出生数の減少は例のない速さで進んでいます。小児医療全体の規模は、今後こどもの数に見合ったサイズに縮小・整理される必要があるでしょう。しかしながら、現在、より大きな問題になっているのは、出産施設や小児の時間外診療の受け皿が、少子化よりも速いスピードで減少していることです。まとまったリソースが必要な医療、例えば、出産施設や救急診療所を集約化するにしても、一度基幹施設に十分な人員を配置する必要がありますが、働き方改革の影響で、人員に余裕のない施設が大半です。少子化が進む今だからこそ、日本の未来を担うこどもが健全に育つ環境を守る、小児の総合医を育てて行きたいと思います。

私は1993年に名古屋大学を卒業し、トヨタ記念病院で一般研修を、長野県立こども病院で新生児の集中治療を中心に学び、一度も大学を経由することなく英国に留学しました。脳保護や高度な画像診断の研究に6年以上従事し、福岡県の久留米大学で初めて日本の大学組織を経験しました。2017年からは、名古屋市立大学小児科の准教授として、斎藤伸治教授のもと、新生児医療のレベルアップと新生児の脳・認知機能研究の拠点作りに心血を注ぐとともに、JST科学技術振興機構のプロジェクト副リーダーとして、少子化の中のこどもと家族を包む街づくりを提案させていただく機会をいただきました。

今年度からは、小児科全体の責任者として、“ナゴヤこども診療モデル”として認められる診療連携モデルづくりに取り組みたいと思います。急性疾患は市中施設、特殊専門疾患は大学病院、と言う役割分担が長らく定着していましたが、こどもの時間外救急診療拠点の維持が困難になりつつある今、多くの若手小児科医を育む大学病院は、専門疾患だけでなく、重症化の可能性がある急性疾患においても、受け皿としての役割を果たすべきと考えます。ご紹介いただいたお子様は、たとえ病床が満床であっても、しっかりとトリアージさせていただき、入院が必要な場合の行き先もお任せいただき、名市大が誇る、多彩な専門分野のエキスパートに最短でつなぐ体制に刷新しております。一人一人のお子さまを、地域の皆様と同じバーチャルチーム内でシームレスに診療できる、一体感のあるプラットフォームを構築して行きたいと思います。こどもたちとその家族にとって、ナゴヤが世界でイチバン安全で安心できる街になるよう、そして、親子両方の窮状を目の当たりにする小児科医の視点から、少子化の要因を一つ一つ解決し、出生数の減少にブレーキがかかるよう、皆様と共に汗を流し、持てる力を生かして行きたいと思います。些細なことでも結構ですので、ご助言・ご指導いただけますよう、よろしくお願いいたします。

小児科 外来担当医師（紹介初診予約枠）

※2026年7月現在

	月	火	水	木	金
総合	杉浦 崇浩 根岸 豊	青山 幸平 伊藤 彰悟	青山 幸平 篠原 務	鈴木 敦詞 山本 和之	岩田 欧介 家田 大輔
循環器		篠原 務 小山 智史			篠原 務 小山 智史
アレルギー			谷田 寿志		
内分泌	大矢知 真希		鈴木 敦詞	(第1・3・4・5週) 原 祐太郎 (第2週) 山口 直哉	
血液・腫瘍		亀井 美智			
神経	家田 大輔	藤本 真徳	根岸 豊		

小児科ホームページ

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/department/syouni/>



NICUホットライン



052-858-7442

名市大の心不全診療は入院治療から入院予防中心へ大きく変化します

循環器内科 講師 **北田 修一** きただ しゅういち



高齢化とともに、心不全患者さんは年々増加しています。心不全は一度発症すると再発を繰り返しやすい、再入院をきっかけに身体機能や生活の質が低下してしまい、予後にも大きく影響することが知られています。そのため心不全診療は、入院中の治療だけでなく「いかに再入院を防ぐか」、さらには「いかに心不全による入院そのものを予防するか」が重要な課題となりました。

名古屋市立大学病院では、従来の急性期治療中心の診療体制から、退院後の再入院予防を重視した診療体制へと大きく舵を切ります。その中心となるのが、「心不全再入院予防チーム」です。

心不全患者さんは、退院後30日間が最も再増悪しやすい時期になります。心不全再入院予防チームは、循環器内科医に加え、心不全認定看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、心不全療養指導士、心臓リハビリテーション指導士、ソーシャルワーカーをメンバーに迎え連携し、退院前から退院後早期の脆弱な期間を切れ目なく支援していきます。

退院前には治療の進捗状況の確認に加え、身体機能、栄養状態やフレイル、服薬状況、生活環境などを評価し、退院後の課題を抽出します。個々の課題に沿って、退院早期の外来で薬剤調整に加え、運動療法の継続支援、栄養指導、服薬指導、療養指導を実施し、再入院予防に取り組みます。

また、病状が安定した患者さんについては、名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院や地域の心臓リハビリテーション施設と連携し、運動療法を中心とした長期管理へと移行します。さらに、名古屋市内の基幹病院と共同で作成した「なごや心不全手帳」を活用し、かかりつけ医、訪問看護、薬局、介護施設などとの情報共有を進めていきます。

私たちが目指しているのは、「病院で治療する心不全診療」から「地域全体で支え心不全入院を防ぐ診療」への転換です。また、心不全再入院予防だけでなく、高血圧、糖尿病、肥満、慢性腎臓病、冠動脈疾患などの管理を通じて心不全発症そのものを予防し、健康寿命の延伸につなげることも目指していきます。「心不全を診る」から「心不全を防ぐ」へ、地域で切れ目なく支える医療体制の実現にむけて、私たちは地域の先生方とともに歩みを進めてまいります。



心不全カンファレンス

E-ステーションのご紹介！

救急災害医療課 **井戸田 康二**

E-ステーションとは、名古屋市立大学病院に設置された、救急・災害医療の発展を目的とした専門組織です。専門家(Expert)による教育(Education)と緊急対応(Emergency)の機能を備え、救急医療のさらなる進化(Evolution)を目指す拠点として運営されています。

6月1日現在9名の病院救命士が所属し、ドクターカーの24時間365日運用をはじめ、病院救急車による患者の連携搬送や転院搬送、救急外来の支援、医師や看護師のタスクシフト支援、消防機関との連携強化、災害医療体制の整備など、多岐にわたる業務を担っています。また、教育・研究活動や各種訓練を通じて救急医療を担う人材育成にも取り組み、地域の医療機関や消防機関と協働しながら、地域住民に安全で質の高い救急医療を提供することで、地域全体の救急医療体制のさらなる充実と発展を目指しています。

